

朝野新聞第二千六百四

明治十五年八月八日

朝野新聞社

正七位大醫山川幸喜先生經驗

コレラ病と成らざる一奇法

虎列刺病流行の際、方りて頗に劇き下痢一二回を發せしむるに芥子壹合を湯に溶し腰浴(十分)をかし壹反此木綿を三つ引裂き帯此如くなきて腰より脚までを兩足登緒し緊き捲き且肛門に當る處を能々壓定去平臥温覆し再び下痢せざる様耐忍せしむ此時嘔氣を催すと苦老らす假令吐にいたると雖も(嘔吐は此病此)恐るゝ、よ足らず一心不亂し耐忍する時は惣身發熱を大ひし發汗する者なご渴甚しき時は少々の湯茶を飲之他の食物を食せず此れ如くすると三十六時間を過せ虎列刺とからず去々全快する者也

抑虎列刺此病たる暫時間に數回の暴瀉をかえ生力沈衰するを本性と故に數種の良藥ありと雖も内服去々其効を收る時間なし故に藥力を深く恃むに足らず唯該療法の最も待むべきある此下痢を耐忍するを頗る難きとなる故に腰脚緊繫肛門の壓定法を施し是を此療法此目的かを予多年此術を経験して深く信する處あるを以て府下の諸彦に廣告せんと此の如し

○前文を山川先生目下コレラ病の日々蔓延するを憂ひ多年實驗せられたる療方た公衆に爲み數千枚の廣告を以て懇篤に告示し且新聞紙を以て普く衆庶に報告せられざるコレラ病療治論解なり予從來賣藥を以て業とする者よ付此際に當り何り適當此療法もあらんと百方考査する折より幸に山川先生が仁慈なる報告を新聞紙上より得たり予故あて先生を乞ひ數萬枚を印刷し附し普く諸君に告知せんことを計りし先生も素企望せられたる處より濟世の志は恰も符節を合す如く因う同志と相計り數方此療法を印刷し諸尊に布聞し奉冀は諸君一般此廣告視せ此療法に注意あらは不測此禍害を免るのとならず又施者の幸也

明治十五年七月 東京日本橋上槇町三番地
 淺井萬金膏本家 安川 榮次郎 同誌
 迎陽堂回生油販賣 同 京橋新着町十四番地
 子宮病妙藥女寶散 國 米 精 一

此公告は世上一般に普及するを要するものに付若し志士仁人此舉を嘉み同意賛成なさを度き方は前兩名の内へ御相談可被下候